

この世の睫毛と光の邂逅 ◇ 佐々木遥

好きな小説家がむかし歌手だったこと 本名から苗字を消して

音楽を聴いているとき仮死になる現実の耳 やはりつめたい

うつろ【空ろ・虚ろ】ふちだけになってしまった感情と目の粗い思考を抱くさま。

えんかん【円環】ループ。自分もほぼ水でそれでもおもう水の循環。

そういえば夢のなかでは泣いたことないな だまって皿拭いている

*

オリエンタリズム (Orientalism) 美しいって雪原をほめつつ車で乗り入れること。

言葉づかい崩さないまま怒ること 皮肉を刃物のように研ぎつつ
ほんとうの悪人とは、とたのしげに話されて目をふせるほかない

*

夏鳥の愛は終わってイヤフォンをはずす私が駅前にいる

かすい【仮睡】鳥の真似して第三の瞼で眼球をおおうこと。

かちかん【価値観】あなたを飾りたてながらあなたを重くする足環、また盾。

クロノメーター〈chronometer〉何度も何度も読み返す本や手紙があればそのこと。

けいひ【経緯】織られた牡牛や白鳥が引き裂かれてそこから解けた糸。

さして【然して】光っているが吹けばとぶ埃また水滴に使う語。

たいいほう【対位法】話せばわかると信じつつその間氷を鳴らしあうこと。

ぬらす【濡らす】ものを自分の手ではなくかわりに水にふれさせること。

銀貨三〇枚ではなくただ一度手綱を握りたかった ユダは

*

ひかり【光】この世の睫毛にはじかれる淡さ、ときおり鋭さのこと。

ふり【振り】海を背にして立つひとを見るときに来るすごい逆光。

ほご【反故】待っている途中で錠をつけかえてそのまま捨てさった前のカギ。

ミレニアム (Millennium) そのとき生きていればわかる暦の息継ぎ、
また千年紀。
続いても百年ほどの朝焼けと水晶体の邂逅だから

*

歌ならば声質 言葉なら文体 涸れても海は塩をのこすよ

ゆき【雪】気まぐれにしては忘れる一瞬の口約束のかがやきのこと。

れきし【歴史】群れなす鳥の羽搏きにふれた空気のたしかなふるえ。

をちこち【遠近】遠い所と近い所。おちこち。窓辺と人工衛星。

インデイズCD誰に貸したかを忘れて氷のせている舌

境ふ／逆らう ◇ 亀山真実

動くな、と言い父親はバリカンを当てる はらはら五分を^ぶ残して

笑われるとき歯が見える 食べ物にとって断頭台代わりの歯

数千の鈴を激しく振るように鳴く蝉 耳をとられて歩く

児童より衣替へたる女生徒のまはりにうすく斥力あらむ

魂は混線するか？プールから出るとき腕が借り物のよう

豚^{ミミガ}の耳をこりこり食べる 人間の耳は手前に引けば千切れる

変声の喉にはまったビー玉もこの身がラムネ壘なら割った

ことの葉は日ごとわれらを分かつべし「かはいい」と言ひかけてせきこむ

長男の意味を知る暮れ 壁掛けの遺影に囲まれている気配

錠前のごとく詰襟留めたりき我が身は常に健児たらむと

刈り込んだ髪を鏡にきらめかせ私は 弱い わたしを殺す

変声を終へしのみどへ朝風をくぐらす我はをとこに成りき

髪の毛の発火点まで迫るほど炎天サガリバナ蕾みたり

物語るあいだにきみの焦点はイスタンプールへゆるんでいくね

はつかなる頭痛残して韋駄天のごとくに通り雨通たり

左目のうちに鏡を覗きみる貴様は 誰だ？ 誰だ？ 無限に

とく絶えむ絶えむ恋など 猛暑日にインフルエンザ警報止まず

腕の毛に夜風はぬるく絡みつき (目守^{まぼ}らるるなり) まっすぐ帰る

望んではならぬ望みが生まれなば人は孤独な看守とならむ

模試の日にきみをサーマルスコープで見たいなきつと輝いている

ここにはない黒髪を視てくれなんて言えるわけない 鏡をたたむ

ほんたうの自我を争ふ まだ産毛ばかりの髭よ砦となれよ

恥を知れ　アマーバのごとひとりでに恋情動き袈裟切りにする
つむじより冷水を浴ぶ　ゼラチンのやうなる我を固めむがため
幾たびも自分自身を問はるればカルスのやうに歪むたましひ
俺はいま誰と闘つてゐるのか　かかと打ちつけつつ歩みをり
もう一人いたたましいを壊しても身体はいまだぬまのようだよ
煙幕に見えるし今日はガリバナ乱れる方の夜道をくぐる
赤本の表紙に光（蛍光灯だけど）めくって確かめてみる
きみをふりむかせる肉体はないから男同士ですする焼きそば

※7首目は2017年12月17日の短歌道場出詠歌

ブルーエイジ ◇ 谷村行海

七夕の笹校内に飾られて去年と同じ願いを探す

噴水のきらめき 模試のいいときも紙飛行機を作れてしまう

自販機の炭酸水だけ売り切れて夏期講習は三日も続く

それは闇、とても短い方の闇 居眠りしても怒られない日

野球部をやめた将司がモヒカンで登校をして明るくふるまう

子猫ならたぶん殺せる この夏もガリガリ君の値段が上がった

流行歌の歌詞に似ている生活をたたえて夏に草木は芽生える

蓋をすることを忘れたワックスが陰毛っぽいのと固まっている

高一の（たぶん）美術で作られたものから異臭が漂う笑う

鉛筆を使う理由を考える目の前にいる田中を刺せそう

親友と呼べない距離で友人にポテチを半分分け与えている

あと三回くらい定期を更新する趣味でもないのにバンドを組むなよ

「文化部は気楽でいいよな」バスケット部が食堂で読むエヴァンゲリオン

自転車に体がフィットしていないまだ子どもとして生きてもいいはず

ワイシャツに虫の死骸が着いていた全部緑の汁が出ていた

未成年のタバコを取り締まっている教師のポケットの赤いマルボロ

誰も使わない教室でバルサンを焚いても火災報知器がならなかった

特別な机はいいな理科室に封の切られたコンドームがある

約束を笑顔で破る友人の肌は俺よりひかりに近い

恋人のためにフリマで靴を買うなるべく笑顔が汚い人の

図書室にない本がほしい校長の太る過程を集めたやつとか

スカジャンを羽織る明日の天気とか誰が好きとか興味もないの

ウォークマンのプレイリストを削除する誰かに愛してほしくもないの

感情をポエムにすればいいのですか鳩に誰かがエサをあげてる

優等生か不良を偽るような目であと六十年は生きなきゃいけない

年確もされない国だ先週のジャンプが競馬の本と売られる

職質に生徒手帳を差し出せば職務はただの世間話に

高卒でも問題なかった 父親に顔が似てきたとか言わないで

右側の視力が下がっているらしい北極星という名の凍傷

深夜に飲むコーンポタージュ 夜空とは明日のために生まれるのです